

はくぶつかんネット 第82号

令和7年4月～7月号
発行：宜野湾市立博物館

戦後80年企画展Ⅰ

無事終了いたしました！

沖縄戦の中の宜野湾

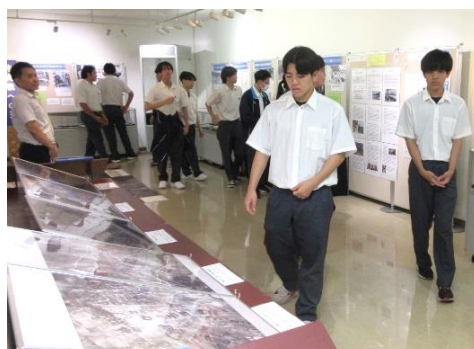
～戦後80年をむかえて～



あっという間に梅雨が終わり、早々に厳しい暑さが続いている今日この頃、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？当博物館では、毎年慰霊の日の時期に合わせて、戦争の記憶を次世代へ継承することを目的に、写真パネル展を開催しています。今年は戦後80年を迎えたことから、戦後80年企画展の第一弾として、写真パネルの他に数多くの実物資料も展示しました。「千人針」^{せん にんばり}「戦時債券」^{せん じ さいけん}「日の丸旗（寄書き）」^{でんたん}「伝単」など、おもに戦時中の住民生活に大きく関わったものを紹介しました。沖縄県立博物館・美術館や沖縄県平和祈念資料館から貴重な資料を提供いただき、翁長良明氏からは多くの米軍関係資料等を借用してご紹介しました。また、宮崎県で平和学習の活動を行っている「かたりべぐるーぶ 南の風」の方々が制作した、沖縄県の学童疎開についての紙芝居や解説なども展示しました。ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

関連事業として6月15日に、市民講座「対馬丸の悲劇～今、私たちにできること～」を開催。対馬丸記念館館長の平良次子さんに登壇いただき、学童疎開船「対馬丸」の米軍による撃沈についてのお話を伺いました。6月21日には、「沖縄『平和の礎』名前を読み上げる集い」が行われ、1,200名余の戦没者名を、30人の方が読み上げました。

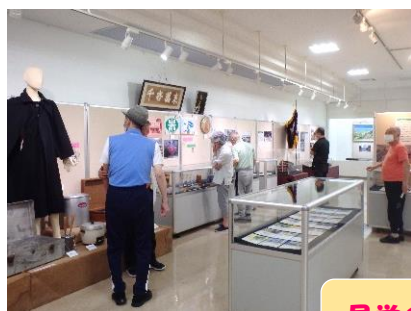
ご来館いただいた皆さまからは「いろんな人が死んでいって、もう戦争を二度としたくないと思いました。」「戦前～戦後の宜野湾の様子が多くのモノ資料と共に紹介されていて、凄い勉強になりました。」「沖縄戦に関する展示を初めて現地で見ましたが、おぞましい過去があったことを忘れないです。」「戦前～戦後の流れがよくわかりました。県外疎開についてこんな機会がないと知れないので良かった。」など多くの感想をいただきました。6月11日（水）から7月13日（日）までの開催期間29日で、市内外から1,666名のご来場がありました。たくさんの方々にご来館いただきまして、誠にありがとうございました！！



ご報告：新収蔵品展 ～令和5・6年度受入資料～

4月16日（水）から6月1日（日）まで、「新収蔵品展 ～令和5・6年度受入資料～」を開催しました。令和5・6年度に収蔵した資料は26件3,455点もあり、企画展ではジャンルごと（くらしの道具やぎのわんにまつわる資料など）数点ずつを選び出し、合計で195点の新規受入れ資料を展示しました。

期間中は1,073名の来館者にご見学をいただき、「地域の方が、資料の寄贈に積極的で素敵だと思いました。」「展示品を見て、先ごろたくさんの戦後の資料の品を処分してしまったことを後悔！」などの感想をいただきました。改めて寄贈者の皆さま、展示をご観覧いただいた皆さまにお礼を申し上げます。



見学の様子



資料の寄贈について

寄贈にあたっての基準は、

- ①宜野湾市で暮らした（もしくは暮らしている）人々が使っていた。
- ②当館に所蔵されていない、もしくは数が少ない。

となっております。

寄贈の多くは市民の皆さまの連絡を受けることがほとんどです。資料の状態や収蔵庫の収蔵状況によっては寄贈をお断りする場合がありますが、まずは当館までご連絡ください！

リュウキュウツミの成長 2025



昨年に引き続き5月17日（水）から7月18日（金）まで、展示ロビー展「リュウキュウツミの成長 2025」を開催しました。「リュウキュウツミ」は小型のタカの仲間で、これまで数年にわたってリュウキュウツミの観察を行ってきた、宮城邦治氏（沖縄国際大学名誉教授）と、飯沼慶一氏（学習院大学教授）のお二人から記録写真や映像等をお借りし、リュウキュウツミの生態をご紹介しました。

当初6月23日（月）までの開催予定でしたが、もっと多くの方にリュウキュウツミを知ってもらおうと7月18日（金）まで延長し、2,693名の来館者に見ていただき、「リュウキュウツミの生態がわかり理解しました。うちの庭の松にもとり、食事をするのでなんだろうと思いこの展示を見にきました。」「拡大写真なので表情が判って人間と共に生きているんだと思い、この環境を大切にしていきたいと思います。」などの感想をいただきました。今年も無事、宜野湾市での育児を終えたリュウキュウツミの親鳥と若鳥が飛びだっていました。また来年もこの地で育児をしてもらうべく、環境を維持していかなければと感じました。

資料をご提供・ご協力くださった宮城氏と飯沼氏に心より感謝申し上げますとともに、ご観覧くださいました皆さまにもお礼申し上げます。ありがとうございました。



観覧の様子



ココがすごいぞ！ シマで生きる道具展

開催中！

7月19日（土）から夏の企画展「ココがすごいぞ！シマで生きる道具展」がスタートしました。本企画展では、「島で生きるチカラ調査隊」・沖縄100年塾「蔓草庵（まんそうあん）」と共同で、戦前から現在に至るまでの道具を紹介しています。道具の中には、宜野湾で用いられてきた道具のほかにも、本島北部のやんばるで使われていた狩猟の道具なども紹介していますので、時代背景・地域による道具の変化にも注目して見ていただくと、より展示を楽しめると思います。また当館で開催の市民講座では、島で生きるチカラ調査隊の皆さまによる「ものづくり体験」なども行います。この夏は、博物館での展示や「ものづくり体験」などを通して先人の知恵を知り、今の暮らしについて考えてみてはいかがでしょうか。

見学・展示の様子



展示では、道具を触ったりできるほか、みんなが参加するコーナーもあるよ！



関連講座のご案内

（受付は開催3週間前から）

①「作る、使う、直すこと」

日時：8/10（日） 14:00～16:00

受講料：無料

講師：島袋 正敏（黙々100年塾 蔓草庵 創始者）

②「もの作り① ヤンバル竹でホーキ作り」

日時：8/17（日） 14:00～16:00

受講料：1,550円（材料費・保険料）

講師：仲間 あずみ 他（島で生きるチカラ調査隊）

③「もの作り② 一斗缶でターグ（水汲み）作り」

日時：8/31（日） 14:00～16:00

受講料：1,050円（材料費・保険料）

講師：仲間 あずみ 他（島で生きるチカラ調査隊）

令和6年度 地域との共同企画展 ぎのわんの“字”展

新天地を求めて～屋取集落編 其之二～（真栄原・佐真下）

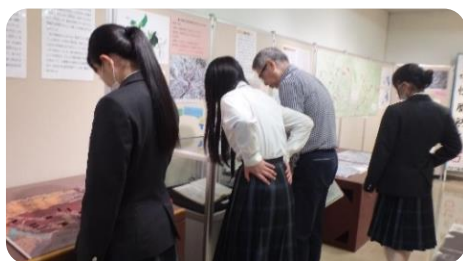
ご報告

昨年度の2月1日（土）から3月30日（日）まで、「ぎのわんの“字”展 新天地を求めて～屋取集落編 其之二～（真栄原・佐真下）」を開催しました。本企画展では首里・那覇から移住してきた土族が宜野湾南部に形成した屋取集落である真栄原・佐真下（現真栄原区）を取り上げて紹介しました。真栄原・佐真下の歩んできた歴史や地域に残る行事・文化財を中心に、戦後の真栄原区としての統合や街の移り変わりなども紹介しました。

期間中 1,569 人の来館者にご見学をいただき、「佐真下に住んでいるが、歴史について改めて勉強する機会になりました。」「地域愛が深まるものと思います。」など多くの感想をいただきました。

改めて、ご来館の皆さま、真栄原自治会・佐真下郷友会をはじめとする、展示にご協力いただいた皆さまにお礼申し上げます。

見学の様子



市史だより がちまやあ Gači-majaa

生活環境の変化

宜野湾村から市への移り変わりには、「基地」の存在が大きく関係しています。戦後の荒廃した時代には、村民が基地建設に携わる生活により、基地に依存した状況が生まれました。復帰前後には、急激な都市化の影響で発生した問題に取り組み、基地依存からの脱却に向けた西海岸地域の開発に励みました。今回の「生活環境の変化」では、この「基地」の存在により村民はどのような影響を受けたのかについて、アメリカ世と復帰以降の主なトピックを取り上げ、戦後80年の宜野湾市について振り返ります。

基地の建設

米軍は日本本土への攻撃基地として1945年6月から宇宜野湾や神山等を中心に普天間飛行場の建設を始め、終戦後も海外戦略拠点として基地は残ることになりました。

一方村民は、生活の糧を得るために軍作業で働くことは欠かせなく、1949年3月頃には働き手の村民のうち70%が軍で働くようになりました。こうして、村では次第に基地関係の雇用や商売が生まれ、普天間を中心に生活へ密接に関わるようになり、村民の生活を基地産業へ依存させるきっかけにもなりました。



▲宜野湾「村」から「市」へ昇格したときの様子
1962年（普天間）

都市計画の構想

普天間を中心に都市化が進み、人口増加やし尿問題など、生活衛生の問題が出てきました。市昇格後は、市全域が市街地区域に指定されたことを受けて、都市計画道路の整備や排水路工事、西海岸地域の埋め立て工事などの計画が立てられました。

1945

1955

1962

▼生活の再建

1946年7月の知念（現南城市）からの帰村を最後に北部疎開、海外引揚げ等で各地にいた村民が野嵩へ帰村しました。10月頃には、野嵩と新普天間地区（現普天間高校裏側辺り）を居住地とし、我如古・嘉数地域から元の居住地への移動準備に取り掛かっていました。この頃は、米軍の指揮の下、女性は配給用の芋掘り作業へ行き、男性はトラックで軍作業の労務に駆り出されるような状況でした。当時は配給だけでは食糧が足りず、米兵のいない頃合いを見計らって戦地跡や畑へ食べ物を調達し、飢えをしのいでいました。



▲住む家を奪われた伊佐浜住民が、最低限の荷物を抱え、移動の準備をしている様子 1955年（伊佐浜）

伊佐浜の強制土地接収

伊佐浜住民は、戦後復興の兆しが見え始めた矢先に土地を奪われてしまいました。この出来事で、32戸の住民が大山小学校に仮住まいをしたのち、美里村高原（現沖縄市）へ移住をしなければいけなくなりました。これを機に故郷を離れる決意をし、ブラジル移民へ旅立つ人たちもいました。

▼グロリア台風の被害

戦後の沖縄には、1951年ルース台風、1956年エマ台風などいくつかの台風が襲来しましたが、その中でも1949年7月23日には風速66mの猛烈な暴風のグロリア台風が押し寄せ、各地に甚大な被害を及ぼしました。当時は雨露をしのぐ程度の住居のため、宇宜野湾では全家屋が全滅するほどの被害があり、大型の台風に見舞われるとひとたまりもありませんでした。

「うるま新報」1949年8月1日 紙面見出し ▲

家屋全壊一万六千余棟
グロリア台風沖縄中南部を猛襲
風速六六米

西海岸地域の発展

西海岸の埋め立て事業は、長らく中断していましたが、宜野湾市に国際交流の新たな拠点となるコンベンションホールが建設されることが決まり、また、海邦国体の競技会場に決まったこともあり、大山から真志喜・宇地泊地域までの埋め立て事業の再開に乗り出しました。



▲市立体育館と沖縄コンベンションセンター建築前の埋め立て後の様子
1985年（真志喜・宇地泊沖）



▲完成した沖縄コンベンションセンター
1991年頃の様子（真志喜）

海邦国体と沖縄コンベンションセンター完成

そして1987年8月からは、完成した宜野湾マリーナで海邦国体夏季大会のヨット競技が開催され、9月には沖縄の産業及び文化の振興の施設として沖縄コンベンションセンターが完成しました。10月の海邦国体秋季大会では高校野球・バスケットボール・アーチェリーが新たに完成した市民野球場・市民体育館・多目的広場で行われました。

沖縄コンベンションセンターの完成と海邦国体の成功は、西海岸地域の発展を県内外にアピールする機会となり、更なる発展が期待されるようになりました。

▼外人住宅の用途の変化

外人住宅は米軍属の家族達が住むために建設されましたが、キャンプ・マーシーやキャンプ・ブーン等の返還後に空になった住宅は、地元住民に売却されたり、賃貸で貸し出されたりするようになりました。近年では、外人住宅の建物が洋風なデザインであることから若い年代に人気が出て、カフェ営業や雑貨屋などにリノベーションをして使用するように変化しています。



▲外人住宅を改装して雑貨屋を営んでいるお店の一例 2025年（大山）

1972

1987

2025

西海岸地域の開発

都市計画の要でもある埋め立て事業は、伊佐から宇地泊までの海岸線を4地区に分け、埋め立てを行いました。伊佐から大山地域近辺は1967年から74年までに市営住宅や流域下水道伊佐浜処理場、伊佐公民館、宜野湾清水苑（し尿の適正処理を行う施設）などの公共的施設も完成し、次第に市の生活環境も整い始めました。



▲埋め立て地に建設された伊佐公民館
2022年時点（伊佐）

沖縄国際大学の開学・琉球大学の移転

1972年には字宜野湾に沖縄国際大学が開学し、首里にあった琉球大学が近隣の西原町へ移転することが決まりました。これらを受けて市は字宜野湾・長田・我如古近辺を「学園文化都市」として地域開発・人口の集中への対策に力を入れていきました。



▲沖縄国際大学 2025年（宜野湾）



▲西普天間地区の返還跡地に完成した琉大病院 2025年
（喜友名）

沖縄健康医療の拠点

キャンプ・フォスターの一部が2015年に返還され、基地跡地利用の先行モデルとして2025年には琉大病院の開院・医学部を開学しました。また国道58号への交通アクセス向上と津波災害の安全確保のため、西普天間線（安仁屋橋）・市道喜友名23号（いさばま橋）も開通しました。

第33回

ぎのわんの文化財図画作品展

「ぎのわんの文化財図画作品展」は、宜野湾の歴史や文化財への理解と愛郷心を育むことを目的として毎年開催しているもので、夏休みに小中学生が描いた市内文化財の作品を秋頃に展示しています。毎年、色とりどりの作品がずらりと並び、力作には「教育長賞」はじめとする賞が与えられ、表彰式も行われる賑やかな展覧会です。

今年で33回目を迎える「ぎのわんの文化財図画作品展」でお披露目する作品を、ただいま大募集しています！！夏休みの宿題に、身のまわりの文化財を調べて素敵な作品を描いてみませんか？皆さんのご応募をお待ちしています！

作品募集

- 応募資格：宜野湾市内に在住、または市内の学校や琉球大学附属の学校に通っている
小学校3～6年生、中学校1～3年生
- 作品のテーマ：宜野湾市の歴史や文化に関するもの
(文化財、名所旧跡、伝統行事、民話、伝説)
- 作品のサイズ：四つ切画用紙
- 作品の描き方：自由(絵の具、版画、ちぎり絵、クレヨンなど)
- 提出方法：夏休み明けに学校の先生に提出
※市内在住で市外の学校に通っているひとは直接博物館に提出

ひとがいないところにある文化財には
大人のひとと一緒にやってね！



令和6年度
教育長賞
受賞作品



今年の受賞者は
キミかも！？

応募
待ってるよ！



こども博物館教室受講者募集！！

博物館では、夏休み期間中の学習支援として8月に3つの教室を行います。この機会に、いろいろなものづくりを通して沖縄の文化や歴史を楽しく学んでみましょう！！

★市内在住または在学の小学校3年生から中学校の児童・生徒のみなさんが対象です。

◎第1回「漆喰（しっくい）シーサーをつくろう！」 参加費：1,550円（材料として）
赤瓦としっくい自分だけのオリジナルシーサーをつくらう。
8月2日（土）10時～12時 受付9時半～ / 定員：20名（先着順）

シーサーは定員になりました！！

◎第2回「土人形をつくろう！」 参加費：300円（材料費として）
粘土をこねたり、のぼしたりして、好きな動物やキャラクターの人形をつくろう。
8月14日（木）10時～12時 受付9時半～ / 定員：20名（先着順）

◎第3回「葉っぱでおもちゃをつくろう！」 参加費：50円（保険料として）
アダンの葉っぱで「ゆびハブ」「カタツムリ」などのおもちゃをつくろう。
8月18日（月）10時～12時 受付9時半～ / 定員：20名（先着順）



【申込み・問合せ】：市立博物館 870-9317

各回3日前までの申込みです。

博物館館長のあいさつ

ハイサイ！ぐすーよー、ちゅーうがなびら！

博物館長の平敷兼哉やいびーん。ゆたしく、うにげーさびら。

令和7年度の博物館事業、市史編集事業が始まり、3ヵ月が経ちました。

今年度、市立博物館では企画展を8本、市民講座やわらば〜体験じゅく、こども博物館教室を計18回、計画しています。特に今年は戦後80年とあって関連企画展を2本、市民講座も4回予定しております。

市史の編さんでは、『宜野湾市史』第5巻民俗のビジュアル版の刊行に向けて、市内で各地の芸能や習俗について調査を進めていきます。また、博物館所蔵の歴史公文書や写真資料も一部ではありますが、公開しておりますので、ご利用いただければと思います。さらに博物館2階の研究室の貸出しも、市民の皆さまのサークル活動の場としてご活用いただいております、ご利用いただきたいと思います。

当館では、こどもから大人まで楽しみ、遊びながら学べる場をご提供し、活気ある博物館をめざしていきたいと思っています。スタッフ一同、皆さまのご来館を心よりお待ちしております。令和7年度も宜野湾市立博物館をよろしくお願い致します。

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

新職員の自己紹介

博物館の新しいメンバーです



★小橋川 香（こばしかわ かおり）・・・事務担当

令和7年4月より一般事務を担当することになりました、小橋川香と申します。業務に不慣れな事もありますが、有難いことに先輩方の丁寧なご指導もあり、日々頑張っておりますので、これからも宜しくお願いします。

★西村 香織（にしむら かおり）・・・事務担当

令和7年6月より一般事務を担当することになりました、西村香織と申します。博物館でのお仕事は初めてで、日々おどろくことや学ぶことが多いです。不慣れな事も多いですが、気兼ねなく声をかけてくれると嬉しいです。宜しくお願いします。

★渡邊 愛依（わたなべ あい）・・・学芸担当

今年の4月に学芸担当として採用されました渡邊愛依と申します。宜野湾市についてはまだまだ知らないことが多く日々勉強中ではありますが、展示やイベントをとおして皆さまに宜野湾市や博物館の魅力を発信できるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



よろしくお願い
しまーす♪



★今年度の職員紹介★

【館長】

平敷 兼哉

【係長】

長濱 健起

【主任主事】

儀間 智美

【事務担当】

小橋川 香

西村 香織

【学芸担当】

田中 樹

陣野原 知行

梅村 素子

渡邊 愛依

【市史編集担当】

齊藤 郁子

照屋 杏奈

令和7年度 年間行事カレンダー



みなさまのご来館をお待ちしております♪

企画展

市民講座

終了しました

【春の企画展】
新収蔵品展
～令和5・6受入資料～

4/16(水) ～ 6/1(日)

終了しました

【ロビー展示】
リュウキュウツミの成長
2025

5/17(土) ～
7/18(金)

終了しました

【戦後80年企画展Ⅰ】
沖縄戦の中の宜野湾
～戦後80年をむかえて～
6/11(水) ～ 7/13(日)

【夏の企画展】
ココがすごいぞ！
シマで生きる道具展
7/19(土) ～ 9/28(日)

【ロビー展示】
県指定史跡
野嵩スディバナビラ
石畳道パネル展
7/28(月) ～
9/28(日)

【小・中学校連携展】
第33回 ぎのわんの文化財図画作品展
10/4(土) ～ 10/19(日)

【戦後80年企画展Ⅱ】
宜野湾 戦後生活史
11/1(土) ～ 1/18(日)



今年は戦後80年です
関連の企画展を2回開催します！

【地域との共同企画展】
ぎのわんの字展
～じのーんどうむら～
1/31(土) ～ 3/29(日)



社会科見学や出前講座、研究室の貸し出しなどを随時受け付けております。
お気軽にご連絡ください！

6/28(日) リュウキュウツミの観察会

講師：宮城 邦治（沖縄国際大学 名誉教授）
飯沼 慶一（学習院大学 教授）

終了しました

6/15(日) 対馬丸の悲劇 ～今、私たちにできること～

講師：平良 次子（対馬丸記念館 館長）

終了しました

7/27(日) 野外 森川散歩

講師：千木良 芳範（元宜野湾市立博物館 館長）

終了しました

8/3(日) 野嵩スディバナビラの石畳道について

講師：伊藤 圭（宜野湾市文化課 文化財保護担当主査）

8/10(日) 作る、使う、直すこと

講師：島袋 正敏（元 名護市立博物館 館長）

8/17(日) ものづくり① ヤンバル竹でホーキ作り

講師：仲間 あずみ 他（島で生きるチカラ調査隊）

8/31(日) ものづくり② 一斗缶でターゲ

講師：仲間 あずみ 他（島で生きるチカラ調査隊）

9/28(日) 外来由来の呪物

講師：高江洲 敦子（沖縄国際大学 非常勤講師）

10/26(日) 野外 御嶽めぐり

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 館長）

11/8(土) 宜野湾 教育のあゆみ

講師：藤波 潔（沖縄国際大学 教授）

開講日が変更になりました！

11/9(日) 野外 ぶらっと博物館めぐり～うるま市立石川歴史民俗資料館～

講師：うるま市立石川歴史民俗資料館 職員

11/30(日) ドウジンをつくってみよう

講師：齊藤 郁子（宜野湾市立博物館 職員）

12/7(日) 野外 戦後のはじまりは野嵩から

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 館長）

12/14(日) 戦後沖縄の社会とくらし

講師：秋山 道宏（沖縄国際大学 准教授）

1/18(日) 近代沖縄の幕開け

講師：前田 勇樹（琉球大学附属図書館 職員）

2/8(日) 野外 みぐてい、イガルーシマ ～じのーんどうむら～

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 館長）

2/22(日) 土の中の宜野湾をみる

講師：長濱 健起（宜野湾市立博物館 学芸係長）

3/1(日) 語らびら、イガルーシマ ～じのーんどうむら～

講師：宇宜野湾郷友会



宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL: 870-9317 FAX: 870-9316



■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日は開館）

